

2026年度（令和8年度）

校内研修の計画

1 研究主題

自ら学ぶ子ども、共に伸びる子どもの育成
～非認知能力「社会性」を発揮する学びのデザイン～

2 主題設定の理由

本校は旧東海道の宿場町であり、石薬師寺、石薬師一里塚、蒲桜、小澤本陣跡などの史跡が残る歴史ある地域である。また、佐佐木信綱氏の故郷として、地域でも学校でも日ごろから短歌を詠んだり、カルタ遊びをしたりするなど文化的にも豊かな地域である。また、保護者や地域の方の教育への関心は高く協力的である。学校の教育活動にも、地域の方々からたくさんの方の協力をいただいております。地域の方々との交流の機会も多くある。地域の中には、地域の子どもの健全育成を願って、「石薬師地区明るいまちづくり推進協議会」があり、地域で子どもを育てるといった基盤がある。

本校では、2年前から非認知能力に焦点を当てた研修主題を掲げてきた。令和6年度には、本市の目指す子どもの姿「人とつながり 自ら豊かな未来を切り拓く 鈴鹿の子ども」及び本校の学校経営改革方針「自ら考え、共に学びあい、進んで行動できる子どもの育成」に基づき、研修主題を「自ら学ぶ子ども、共に伸びる子どもの育成 ～認知能力と非認知能力を共に伸ばす授業づくり～」とした。同年度の本市の動きとして、非認知能力の育成を重視した教育振興基本計画を掲げ、その中でも、鈴鹿市版非認知能力アンケートから、「やりぬく力」「自制心」「自己肯定感」「社会性」といった非認知能力を重要視すると示された。

令和7年度には、「やりぬく力」に注目して研修主題を「自ら学ぶ子ども、共に伸びる子どもの育成～非認知能力「やりぬく力」を発揮する学びのデザイン～」とした。鈴鹿市教育研究発表会では、国語・理科・算数・生活単元学習で授業公開を行い、事後検討会でも多くの学びを得た。その中で、「言語化・説明力の深化」・「協働的な学びと学びの深まり」に関して課題が残った。授業の場面や試験の記述問題などで、自分の考えを論理的な言葉で説明することに対して壁がある。また、一見他者とかわかりあって学んでいるようでも、いつも仲の良い者同士で偏ったり、集まっているだけで話し合いや活動が停滞していたりする場面が見られた。

以上の経緯と、成果と課題をうけ本年度の研修主題は、「自ら学ぶ子ども、共に伸びる子どもの育成～非認知能力「社会性」を発揮する学びのデザイン～」と設定した。研究主題の

「自ら学ぶ子ども」とは、対自的な面、すなわち自分と向き合う力、自分を高める力を高めた子どもを示している。「共に伸びる子どもの育成」とは、対他的な面、すなわち他者とながらる力を高めた子どもを示している。そして、「社会性」に注目することで、子どもたちの言語化・説明力を育み、協働的な学びを深められるような具体的な手立てを考えていきたい。「社会性」を発揮する学びをデザインしていくことで、非認知能力の他の項目についても相乗効果でさらに身に付き、自ら学び、共に伸びる子どもの育成につながると考えた。

3 目指す子どもの姿

石薬師小学校 学校経営方針

自ら考え、共に学びあい、進んで行動できる子の育成

学校経営改革方針を受け、研究主題を設定するにあたり、目指す子どもの姿を次のように考えた。

研究主題の「自ら学ぶ子ども」とは、対自的な面、すなわち自分と向き合う力、自分を高める力を身に付け、目標に向かい自ら進んで学ぼうとする姿を示している。「共に伸びる子どもの育成」とは、対他的な面、すなわち他者とながらる力を身に付け協働的に学ぼうとする姿を示している。

目指す子どもの姿

- ・自分と向き合う力、自分を高める力を身に付け、目標に向かい自ら進んで学ぼうとする姿
- ・他者とながらる力を身に付け、協働的な学ぼうとする姿

そのような目指す子どもの姿を特に副題にある「社会性」を発揮している姿に落とし込むと具体的には次のようになる。

社会性のある子ども	① 学び合いを通して協働的に課題を解決することができる ② 友だちの考えを聴き、受け入れることができる ③ 自分の考えをわかりやすく伝えることができる ④ 学習規律を守って、学習に取り組むことができる ⑤ 困っている友だちに声をかけたり、困ったときに自分から友だちに声をかけたりすることができる
-----------	---

そして、このように「社会性を発揮する姿」として以下のルーブリックを提案する。

S	目的に応じて、相手が誰でも自分からかわりをもとうとし、友だちの考えや気持ちをわかろうとして聴いたり、相手に伝わるように話し方を工夫したりして、協働的に活動できる。聴き手としても話し手としても、相手を尊重した態度で授業に臨み、クラスとして学習規律を大切にするような行動がとれる。相手の様子をうかがいながら、困っている友だちに声をかけたり、困ったときに自分から友だちに声をかけたりすることができる。
---	---

A	友だちの考えや気持ちをわかろうとして聴いたり、相手に伝わるように話し方を工夫したりして、協働的に活動できる。聴き手としても話し手としても、相手を尊重した態度で学習規律を大切にできる。困っている友だちに声をかけたり、困ったときに自分から友だちに声をかけたりすることができる。
B	話している人の方を向いて聴いたり、丁寧な言葉を使って話したりして、協働的に活動できる。聴き手としても話し手としても、相手を尊重した態度で学習規律を大切にできる。困っている友だちに声をかけたり、困っているときに自分から「困っている、わからない」と友だちに伝えたりすることができる。

4 研究主題達成に向けた取り組み

① 指導者間での共有

「社会性」を発揮している姿を挙げ、授業においてそのような姿が見られたら「社会性」を発揮している授業であるとするを教員間で共有する。

(例)

- ・相手の考えや気持ちをわかろうとして話を聴いている
- ・自分の考えと比べながら相手の考えを聴いて、自分と同じところや違うところを見つけている
- ・相手に自分の考えを理解してもらえるように、表現や伝え方を工夫している
- ・わからないときに、自分から「わからない」と伝えている
- ・学習活動の目的や相手の様子に応じて、一緒に活動する相手や相談する相手を決めている

② 児童との共有

児童と「非認知能力」を身につけることの良さや、「社会性」を発揮している具体的な場면을普段から共有していく。

- ・年度初めに一斉に
- ・教師が具体的な姿を指定し、その中から児童が自分で目標となる姿を選んでもよい。
- ・どんな自分になりたいか具体的に考えさせる。

③ 「社会性」が発揮される場면을授業の中で意図的に設定する。(協働的な学びの日常化)

・熱意をもって取り組もうとする課題設定の工夫(児童の願いや思い、必要感、困り感、生活に即した学習課題)

- ・すぐには解決できなったり、試行錯誤を要したりする学習課題・展開の設定
- ・グループの協力を必要とする学習展開
- ・複線型の活動を取り入れた学習展開
- ・自己決定の場면을授業の中に設定する
- ・学習内容・「社会性」を意識しためあての設定と、そのめあてと整合するふりかえり

④ 教師の見取りとフィードバック

- ・結果ではなく、「社会性を発揮しようとする」具体的な場面や非認知能力がを發揮している過程を見取り、言葉による評価を共有する。(子どもへの声掛け)
- ・失敗を許容できる環境をつくり、励ましたり支援したりしながら学習を展開する。

⑤ 学習の振り返りと「学習のあしあと」

- ・学習の振り返りを充実させることで、非認知能力・認知能力の両方について、児童自身が自らの成長、達成感を価値づけられる機会をつくる。
- ・「学習のあしあと」として、1 か月に 1 回程度、自分の非認知能力的側面を振り返る。

⑥ 教員自身の定期的な自己評価、振り返り

⑦ ポジティブメッセージカードの継続（自己肯定感は、非認知能力の基礎的な要素）

5 日常の授業における取り組み

① 安心して学べる環境づくり

- ・安心して学べる教室環境づくり
教室前面は刺激が少ない環境 (UD)
ICT の活用
「ベル着」を徹底し、教師も終わりの時間を守る
- ・安心して学べる学習集団づくり
学習規律「学びの作法」
学習時の持ち物の徹底
失敗を許容しあえる子ども同士のつながり
発表するときの声の大きさ、聞き手を意識した発表など、児童のスキルを鍛える

② 協働的な学び合いの日常化

- ペアやグループを活用したり、複線型の活動を設定したりする
- 目的が明確な意見交流をする
- グループでの話し合いスキルを身につける
- 問題解決的、多様な答えや、つまずきが起こるような課題設定をする
- 効果的に ICT を活用した考えの表現方法を工夫する